

第2回 日本・アラブ経済フォーラム

一 槍田会長の講演内容

社団法人日本貿易会 国際グループ

12月11 - 12日にチュニジア・チュニスにて経済産業省、外務省およびアラブ連盟共催の第2回日本・アラブ経済フォーラムが開催され、当会を代表して槍田会長が参加した。

槍田会長は、「投資、観光、金融、貿易分野における協力」をテーマとしたパネルディスカッションにおいて、今後の商社の役割、アラブ諸国政府およびわが国政府への期待などについて講演した。

日本・アラブ経済フォーラムには、日本側から経済産業大臣、外務大臣をはじめとする政府・政府関係機関、民間企業・団体等から約400名の参加があり、またアラブ側からアラブ連盟事務総長をはじめとする国際機関トップや関係閣僚等約700名の参加があり、日本とアラブ諸国との相互の経済関係を強化することを目的として活発な意見交換が行われた。

槍田会長の講演内容は以下の通りである。

1. はじめに

国際通貨基金（IMF）の世界経済見通しによりますと、中東・北アフリカ地域ではリーマン・ショック以降も早い回復と持続的な成長が続き、2010年に4.1%、2011年には5.1%



と、高い経済成長が予想されています。

同時に、若年層人口の増加を背景として、アラブ諸国は既に人口約3億3,000万人の一大市場を形成しており、ハード、ソフト両面における経済基盤整備のニーズが拡大する中、消費市場としての存在感も高めてきています。

さらに、雇用機会の創出、なかんずく、非石油部門の産業育成とそのための産業の多角化・高度化が大変重要な課題になっており、わが国は従前からのエネルギー・資源分野における取り組みの深化に加えて、各国のニーズに沿った、新たな戦略的パートナーシップの構築を目指す必要があると考えます。

2. 商社の活用について

私が会長を務める日本貿易会は、日本の総合商社を中核メンバーとする約100社の企業と50の貿易団体から成る業界団体で、私も、三井物産という総合商社の会長を務めています。

ご承知の通り、商社というのは、日本固有の業態で、そのビジネスモデルを説明するのは大変難しいのですが、もし仮にこれを一言で表すとすれば、「その時代、時代において必要とされるさまざまなニーズや課題に対して、自ら当事者として関わり、産業的な解決に果敢にチャレンジしていく企業体」ということになるのではないかと思います。

例えばアラブ諸国との関わりで言いますと、当初エネルギー関連のトレーディングから始まったものが、その後、エネルギー開発そのものへの関与や、当地の経済発展に伴う発電、造水、鉄道等の大型インフラ事業への主体的参画といった具合に、ビジネスモデルを大きく変容（多様化・拡大化）しています。

最近では、当地域の市場としての存在感が高まる中、コンシューマー系のビジネスにも挑戦しており、新エネルギーや新技術を軸とする環境案件や、農業、医療、水事業等の幅広い分野にも、積極的に進出しつつあります。

商社はさまざまな機能を有機的に組み合わせ、情報の収集や分析、企画・立案、パートナーの選定、コンソーシアムの組成、必要な資金や原料・資機材の調達、製品の販売先開拓等々を包括的に遂行し、さまざまなプロジェクト



を当事者として、またオーガナイザーとして推進しています。

さらに昨今のグローバル化やIT革命の急激な進展に呼応して、(1)これまでに蓄積した情報収集・分析機能や市場開拓機能、(2)事業開発や事業経営に係るノウハウおよびリスクマネジメント機能、(3)IT（情報技術）、LT（物流技術）、FT（金融技術）、MT（マーケティング技術）等を活用して、より一層の機能の高度化、複合化、高付加価値化を展開しています。

こうした多種多様な機能と、われわれ一人一人にDNAのごとく承継されたチャレンジング・スピリッツおよびフレキシビリティによって、世界中のありとあらゆる国・地域で、ありとあらゆるビジネスニーズに応えるべく、挑戦し続けているのが商社なのです。

例えば、私が会長を務める三井物産においては、エネルギー関連でカタールのLNG液化事業等を手掛ける一方、インフラ関連では、ユーティリティ分野でUAEやヨルダンの独立系発電・造水事業に取り組み、ま

た物流インフラ分野ではドバイ資本と連携した物流倉庫ビジネスに、輸送インフラでもサウジアラビアでの南北資源鉄道にそれぞれ取り組むなど、対象となる領域は大きく広がっています。

このようにわれわれ「商社」は、皆さんの国・地域の経済および社会発展に伴うさまざまなニーズや課題を正面から受け止め、それがいかなる分野の、いかなるものであっても、きちんと応えることができます。

アラブの各国には、必ず商社の出先がありますので、ぜひ皆さんのニーズをOne Stopで受け止めることができる相談窓口として、最大限ご活用いただければと思います。

3. 政府へのお願い

わが国にとって戦略的に大変貴重なパートナーであるアラブ諸国の経済および社会発展に資する重要プロジェクトに、ぜひわれわれ「商社」も、皆さんと一緒に挑戦していきたいと考える次第ですが、こうしたさまざまなニーズに対応するビジネスやプロジェクトをスピーディーに推進していくためには、官民が一体となった取り組みが必要不可欠です。本日は、せっかくの機会ですので、アラブ側政府とわが国政府の双方に、この場を借りて、いくつかお願いをしたいと思っています。

まず、両政府におかれましては、貿易・投資・サービスの一層の自由化をお願いしたいと思っています。



特に、アラブ側には、さらなるビジネス環境の整備、例えば、外国資本の参入促進に向けた一層の支援策や、経済の自由化に対する積極的な取り組み等をお願いしたいと存じます。

他方、わが国政府に対しては、トップ外交も含めたビジネス関係強化へのサポート、特にインフラ・システム輸出に対する支援の拡大と強化をお願いしたいと思っています。

インフラプロジェクトは事業規模も大きく、日本企業だけで対応が難しい場合には、諸外国企業を含めた連携やパッケージ化も必要となります。ぜひ円借款の拡充や柔軟な支援体制の確立をお願い致します。

4. 終わりに

最後になりますが、今後も本フォーラムのような日本とアラブ諸国の対話を深める「場」を通じ、トップ外交を含む多角的・重層的な人脈形成により、その関係が、太く、長く発展することを希望して、私の結びの言葉とさせていただきます。